

4日間の破壊オルグを粉砕し勝利したぞ！



日刊
動労千葉

79.5.2

No. 108

国鉄動力車労働組合
千葉地方本部

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電二五八・九・公衆電話三三二二七二〇七)

「オルグはなにも成果がなかった……」 「本部」敗北の総括集会

全組合員の皆さん。

動労千葉一四〇〇名の鉄の団結と創意あふる闘いによって、四月二八日以降連日約一〇〇〇名の動員者を全国からかき集めて強行された動労千葉破壊「オルグ」団は、なすすべもなく疲労と消耗感のみを胸中に抱いて帰っていった。われわれは、この四日間の全国動員による「動労千葉再建」を公言する動労「本部」暴力集団の策動を完全に粉砕し、一四〇〇組合員の勝利の団結力をさし示したのである。この事実をもって「動労大改革運動」は勝利へ向けた新たな地平を切り開いたのだ。

暴力、甘言、
金力には屈しない

グ」を行っていたのである。

この四日間の「再建オルグ」と称する動労千葉破壊「オルグ」をいかなる意味においても許さなかったし、動労千葉一四〇〇組合員のかぎりない戦闘性と労働者魂を発揮した。まさに正義は不滅である。

四月一七日津田沼へあらかじめ竹竿、ボール、かけや、ベンチ、ノコギリを用意して投石しながら庁舎に乱入し、居合わせた支部役員、組合員をテロ・リンチし、片岡支部長の頭蓋骨を骨折させるといふ蛮行・およそ労働組合とは無縁な動労「本部」暴力集団の本性をあらわにした卑劣な行爲にも屈せず闘う動労千葉一四〇〇組合員こそ勇気ある労働者であり、未来を切り開く真の労働組合の姿であることを全国につけ知らせた。

対照的に動労「本部」暴力集団はどうであったのか。全国動員された「オルグ」団のなかから竹竿やボールをもっていく「オルグ」は拒否するといふ声が湧き上り、暴力破壊「オルグ」の「主要武器」の竹竿やボールを持つことができず、そのくやしさを全国青年部を偕称する革マル分子だけで特別部隊を編成し船戸、中泉、村上を先頭に

て千葉駅各ホーム詰所を占拠し、勤務中の動労千葉組合員に暴力を振り、バッチ、ワッペンをひきけがすといふ蛮行を行った。

更に、二九日、千葉運転区支部組合事務所の鍵を壊し、コソ泥的に侵入し、手当りしだいに荒すという、こうした行為が「オルグ」といえるのか。そればかりか、乗務先や乗務員詰所で「水本」「三里塚」「貨物安定宣言」「4・17事件」「津山大会暴力」について追及された「オルグ団」は一つ答えることができず、「国労へ二、三人でま」とまっていけ」等と動労本部方針とは逆な「オル

五月一日、千葉運転区前でボロボロに疲れきった動労本部暴力集団の総括集会では「四日間のオルグの成果はなにもなかった」と敗北の弁を語った。然り、然り、動労本部暴力集団が敗北を語らざるをえないまで、動労千葉一四〇〇組合員の団結は強固である。そればかりか、労働者としての信義を重んじ、動労の反動分子による暴力支配を絶対に許さず、いかなる困難があろうとも勝利の日まで闘うという確信に燃えた四日間の闘いの成果であるのだ。

四日間の闘いの勝利は不動である。権力、当局、他労組内一部反動分子と一体となった動労本部暴力集団の動労千葉破壊策動を許さず、更に奮闘しよう。

動労大改革運動の勝利は見えた！

これが四日間の「オルグ」団の実態である。